

逆瀬池（さかせいけ）

位置図



諸元

貯水量	536	千m ³
満水面積	6.2	ha
受益面積	360	ha
堤高	25.9	m
堤長	78	m

三豊市山本町の県道6号込野観音寺線を六地藏越えにかかるカーブを曲がると、左手に堤防が見えます。堤防を上ると、めずらしいシャフト式（たて穴落下式）洪水吐が姿を現し、「名勝逆瀬池」の標柱が立っています。

その昔から三豊平野の旧辻村（三豊市山本町の一部）、豊田村（観音寺市新田町）は水に乏しく、ため池が数多く築造されましたが、どのため池も集水面積が狭く、満水することはほとんどまれでした。田植えをすると池は空になり、「田回り畑回り」と水田と畑作をほとんど1年ごとに繰り返していたといえます。

そこで昭和初年（1926年）、徳島県からの導水を計画しましたが実現せず、計画の規模を縮減し、県営事業として昭和17年（1942年）農林省の認可を得られ、地元団体として三豊郡中部用水普通水利組合連合を組織しました。

同年12月、県営工事として着工されましたが、戦争で中断、戦後の復興とともに工事も進み、着工以来14年目の昭和30年（1955年）、全工事が完成しました。逆瀬池の貯水量は工事前は10万m³ほどでしたが53万m³に増大し、香川用水が通水した今でも農業用水源として重要な役割を果たしています。

逆瀬池は四国のみちに指定されており、また、桜の名所としても知られ、毎年多くの人が訪れています。



四国のみちに指定された逆瀬池



シャフト式（たて穴落下式）の洪水吐